

委員会記録

○第一回 合同委員会

一、期 日 一〇月三十一日 正午より

一、場 所 大会宿舎（ホステル合歓 食堂テイルーム）

一、出席者 島田、安孫子、田原、安原、蓮見、服部、高山、

吉沢、川本、高橋、牧野、余田、後藤、松本、原、

岩本、似田貝、島崎、中野、柿崎、（欠席、布施、

内山、中井、村長、内藤、小池、福武）

一、議 題

(イ) 第二二回研究大会の共通課題

川本委員より、各会員から提出されたアンケートの結果は、「本年度の大会課題の継続」三、「課題の継続だが変化をもたせる」一、「家」三、「現実分析」（過疎など）二、「方法論」一、「自由報告」一であったと報告があり、討議の中では、継続を主張する委員（蓮見委員）に対し、民俗学を含め他分野の研究者が参加しやすいテーマに変更した方がよい意見（川越、柿崎、原各委員）があり、そのために戦前の家の問題を設定せよの意見（中野委員）が出され、これと関

連して、「家・村落の内部組織に重点を置いて設定せよ」
(後藤委員)、「家の内部を扱う課題を『戦前の家と社会体制』としてはどうか」(島田委員)、「本年度課題の発展として家(近代原型の家)をとりあげよ」(田原委員)、「家を課題とするとき来年度を戦前の家とするなら、次年度は戦後の家を設定できないか」「家という課題を設定するとき、賃労働者化と家という視角で設定できないか」(安孫子委員)などの提言がありました。

本年度の課題への接近が経済的視角からなされていたことについて、「都市でも資本以外の問題がある」(松本委員)の指摘があり、また調査対象地が先進地帯に集中したことについて「先進地の事例だけでなく、後進地も対象とし、たとえば『過疎地域の再編成』、『二五万都市地域の農村』を設定できないか」(余田委員)などの発言があり、これらの諸意見を集約して、宿題委員がつめることにしました。

- (ロ) 研究会のもち方
研究会はこれまでのように東京だけでなく地方でも開催することにし、今年度は大会をひきうけた東北大学を中心に、東北地方の研究者による研究会を最低一回は開催することになりました。

- (イ) 宿題委員会
蓮見委員より「都市と農村の対立V」という本年度課題の宿題委員としての任務が終了したので辞任したいとの申し出が

ありましたが、「家という課題を設定するにしても本年度の課題の発展としてみることでできるので、宿題委員は全員留任してもらい、もし課題によって補充が必要な場合は宿題委員で適任者を選び補充できるようにしました。

- (二) 新事務局および次期大会当番校

四九年度の事務局は中央大学(島崎、田野崎、吉沢各会員)に、次期大会当番校は東北大学に決定しました。

。第二回合同委員会

一、期 日 十二月七日 午後五時半より

一、場 所 学生会館本館 三〇七号室

一、出席者 中野卓、高山隆三、高橋明善、柿崎京一、蓮見音彦、

安原茂、似田貝香門、益田明美(前事務局)、島崎稔、
田野崎昭夫、吉沢四郎、

一、議 題

- (イ) 大会の共通課題について(宿題委員会)

蓮見委員より、四九年度大会の共通課題についての提案があり、これをめぐって熱心な討論がおこなわれました。(宿題委員会からの提案と討議の概要は前記参照)

- (ロ) 年報第一〇集の編集、その他について(編集委員会)

柿崎委員より、(1)年報第一〇集の原稿応募者と論題が報告され、共通課題、自由報告、応募、依頼原稿を合わせて一〇編となるので、年報は頁数の関係から六編にしほる必要があり、個

個の論文についてはもう少し検討することになりました。ただし、依頼原稿、共通課題は優先することを決定しました。(2)第一〇集に掲載する研究動向の執筆者について柿崎委員より意見を求められ、いろいろな意見が出され、これらを参考にして編集委員が交渉することになりました。決定次第「通信」で会員の協力をよびかけることになりました。(3)村研年報第九集は図表が非常に多く、印刷コストが高くなったので、現在の出版事情から何んらかの自主規制が必要となり、柿崎委員が第一集から第九集までの原稿を詳細に検討した上で、「原稿執筆要領」を作成し、提案されました。合同委員会で検討の結果、ほぼ原案通り決定いたしました。この新しい執筆要領は、執筆される方に、柿崎編集委員からお送りすることになりました。